

リスクアセスメント報告書 (事例1-3)

対象作業名 : 間伐作業

実施者氏名 : ○○さん、△△さん、□□さん、◎◎さん

報告書作成日 : 平成○○年○○月○○日

No.	危険要因の洗い出し					リスク見積り (現状)		リスク評価 (現状)	リスク低減対策			改善に当たり考慮すべき事項	優先順位		
	作業名	危険要因の内容	災害に至るプロセス			可能性	重大性	リスクレベル	対策後のリスク見積り(予測)		対策後のリスク評価(予測)				
			～するとき	～したので	～(事故の型)になる				可能性	重大性				リスクレベル	
14	集材作業(木寄せ)	転石	ウインチで集材木を下げ荷方向に引いたとき	浮石に当たって転がり落ち	激突される	△	×	4	①材の引き寄せ方向の危険性を良く確認しておく	○	△	2	①②をあわせて行う	1	
										②浮石はあらかじめ取り除くか、杭止めなどをして安定させておく	○	△	2		安全作業の基本を再教育する
15	集材作業(木寄せ)	スリングロープ	荷かけ完了合図で、巻き上げが始まったとき	スリングロープを手で押さえていたので	ロープに手袋が挟まれ、指先が写りこまれる	△	×	4	①荷かけをしたらすくに退避する	○	○	1	安全作業の基本を再教育する	1	
										②作業者間の合図を確実にを行う	○	○	1	あらかじめ合図を定めておく	2
16	集材作業(木寄せ)	ワイヤロープ	フックを荷かけ場所に移動させるとき	ドラムの索の食い込みで逆巻きが起こり	フックごと体が強く引っ張られ転倒する	△	△	3	①ワイヤロープが乱巻きになっていないか確認する	○	△	2	①②③をあわせて行う	1	
										②運転手から荷かけ者への危険の合図を素早く確実にを行う	○	△	2		あらかじめ合図を定めておく
											③フックを移動させるラインの速度を緩やかにする	○	△		2
17	集材作業(木寄せ)	ワイヤロープ	材を引き寄せるとき	引っかかった材をアームを上げて無理に引き寄せたので	ワイヤロープが切れて飛来しキャビンに激突する	○	×	3	①アームを上げて無理に引かない	○	○	1	①②③をあわせて行う 安全作業の基本を再教育する	1	
										②ワイヤロープの点検を徹底する	○	△	2		ワイヤロープの傷んでいるところはつなぎ直す 交換基準に従って交換する
										③運転室にガードを取り付ける	○	○	1		
18	集材作業(木寄せ)	集材木	スイングヤードで材を下げ荷で引き寄せるとき	材が滑ってきて	ベースマシンに当たる	△	×	4	①向柱を設け引き寄せる方向を変える	○	○	1	①②③④をあわせて行う	1	
										②ホールバックラインで滑り出しを抑えながら引き出す	△	○	2		
										③集材木が重なっている場合、重なりの上にある材から順に引き出す	△	○	2		
										④運転室にガードを取り付ける	○	○	1		

リスク低減対策は、検討の順序に従って考える
 ①危険作業を廃止。作業のやり方、機械、道具等を変更
 ②安全装置、保護具等の使用
 ③教育訓練、作業管理等の実施

対策後のリスクレベルを確保する方法を具体的に示す
 ①対策後に発生する別の新しいリスクに対応する事項
 ②残留リスクが増大しないように考慮すべき事項

リスクの評価基準

災害の可能性

可能性ランク	記号
かなり起こる	×
たまに起こる	△
ほとんど起こらない	○

災害の重大性

重大性ランク	記号
極めて重大	×
重大	△
軽微	○

リスクレベル

リスクの見積り	リスクレベル
××	5
×△、△×	4
○×、×○、△△	3
○△、△○	2
○○	1

リスクへの対応

リスクレベル	リスクへの対応
5	受け入れ不可能なリスクであり、即座に他の方法へ回避する必要がある
4	受け入れ不可能なリスクであり、抜本的な対策を実施する必要がある
3	受け入れ不可能なリスクであり、何らかの対策を実施する必要がある
2	受け入れ可能なリスクであり、現時点では特に対策の必要がない(残留リスクあり)
1	受け入れ可能なリスクであり、対策の必要がない(残留リスクあり)